

新聞作りを取り入れた「読解力」を高める説明的文章の授業づくり

江田島市立柿浦小学校 武川由美

新聞記事にして伝えよう

「かむ」ことの手

(光村図書 4年上)

1 実践のねらい

(1) 目的のある読みを作る

子どもたちにとって「読まされる」のではなく、文章を何度も何度も「読まざるを得ない」ような活動を引き出すにはどうしたらよいか。そのためには、子どもにとっての読みの目的を設定し、読むことに必然性をもたせることであると考え、本実践を行った。

本実践は、読みの目的として、新聞記事にして伝えることを設定した。本文を読む際に、「新聞にして伝えるために、書かれていることを要約する」という活動の目的を明確にし、読んで分かったと思うまで何度も読むことにつなげた。

(2) 自分の考えを伝える

自分の考えを伝える・表現する活動の充実は、「読解力」を高めると考えた。つまり、読んで文章を理解するだけの読みから、読んで得た情報から必要なものを取捨選択し、それについて自分の考えをもち、表現することにより情報活用能力の育成につながる読みが形成されると考えた。「かむ」ことの手の中で自分なるほどと思った事例について、さらにくわしく調べたり広げたりしながら新聞記事にまとめていく活動を仕組むことによって、読むことが実生活と結びつくと考えた。

2 実践の仮説

説明的文章で「新聞記事にして伝えよう」という目的をもたせれば、内容の中心をとらえて的確に読み取り、自分の考えをまとめ、筋道を立てて考える力を育てることができるであろう。

3 検証の視点

- (1) 活動目標をもたせ目的を明らかにすることによって、的確に読み取ることができたか。
- (2) 一人読みの場を確保することによって、自分の考えをもち、筋道を立てて考えることができたか。

4 指導の工夫

(1) 活動目標をもたせる

- 目的をもって読む

学習のゴールを「新聞記事にして伝える」とし、「『かむ』ことの手」で大切なことを新聞にまとめて、3年生に知らせるといった目的と相手を意識した読みとする。

- 他の単元との関連を図る

「新聞」を軸に、他教科・他単元とも関連させながら学習したことをまとめていく。

(2) 自分の考えをもたせる

- 一人読みの手引きの活用

書いてあることを正しく読むための手立てとして、「一人読みの手引き」を作成して、それを使いながら自分で要点をまとめることができるようにした。

○ 書き込み教材文の活用

段落相互の関係が視覚的に捉えられるように、一枚になる教材文を用意し、自由に自分の読みが書き込めるようにした。

5 指導の実際

【検証の視点1】

活動目標をもたせ目的を明らかにすることによって、的確に読み取ることができたか。

(1) 新聞作りに向けて記者から学ぶ

社会科でリレーセンターに見学に行き、そのことを新聞にまとめる活動を行った。そして次に、環境センターに見学に行き、新聞にまとめようという計画を立てた。それに関わって、中国新聞江田島支局の新聞記者をゲストティーチャーとして迎え、授業を行った。

日時 平成20年5月27日(火) 第3校時

単元名 国語科

伝えたいことをはっきりさせて書こう 「新聞記者になろう」

本時のねらい

- ・ 新聞の役割や作り方に興味をもち、自分が取材したことを記事にして新聞を作ろうとする意欲をもつ。
- ・ 新聞記者の話聞くことを通して、取材メモの取り方や事実を正確に伝えるための「5W1H」の大切さを知ることができる。

- ・ この授業を通して、新聞に興味をもち、記事は大事な言葉を落とさずに短くまとめていくという書き方を理解することができた。新聞を書くことに意欲的になった児童も多く見られた。
- ・ この後、「手紙を書く」教材とも関わらせ、お礼のお手紙を書くことができた。

〈児童の手紙文より〉

- ・ 新聞を書いてみると楽しかったです。教えてもらったように事実と感想を分けて書くコツがだんだん分かってきました。次に新聞を書く時はすらすらできると思います。
- ・ 教えてもらったコツを使い、数を落とさずに、よりたくさん数を書くようにしました。
- ・ 最初はどのようなふうの記事を書けばいいか分からなかったけど、メモ帳を見て記事を書きました。そうすると、いろいろな工夫もできてちゃんと書くことができました。



(2) 検証授業

単元 5 / 11時間目

本時の目標

- 「中」の説明の段落(⑤～⑧段落)から中心となる語や文をとらえて、よくかむことのよさを読み取ることができる。

①接続語に着目する

「かむことのよさはいくつ書いてありますか。」

- ・ 根拠となる接続語に着目して3つと分かった児童は、16名中12名であった。書き込み教材にも正しく印を付けていた。3つということを入りに入れてまとめることができればよいと考える。

②要点を見つける

「それぞれの段落に書いてあるかむことのよさを見つけましょう。」

- ・ 大事だと思うところに線を引かせた後、発表させた。繰り返して出てくる「かむ」という言葉に印を付けたり接続語に着目したりしながら、大事なことを見つけようとしていた。

③要点をまとめる

「120字以内で新聞記事にまとめましょう。」

- ・ かむといいことを3つとも書けた児童・・・10名(63%)
 - 接続語(まず、次に、さらに)を入れて・・・5名
 - (一つ目は、二つ目は、三つ目は)・・・1名
 - 接続語はないが、3つ書けている・・・4名
- ・ それぞれの段落から一つずついいことをまとめるのではなく、学習範囲全体の中でかむといいことをまとめてしまい、⑧段落の「かむことは脳の働きと結び付いているので、よくかむことで、脳の働きが活発になります。」という部分を中心にまとめている児童も3名いた。
- ・ 字数制限があることで、まとめるのに必要な言葉を吟味する姿も見られるようになった。
- ・ 書いたものの交流ができなかったので、次の時間に典型的な書き方をしているものを3つ取り出し、比較して分かりやすい書き方はどれかを考えてみた。

・かめばかむほどいいことは、ほかに三つある。まず、だえきといっしょに数十回もかむと、脳から指令が出る。次に、歯の全体を使ってよくかむことは、歯をくいしばる力、体全体の成長にとって大切。さらに朝ごはんをよくかむと脳の働きが活発になる。

(A児)

・食べ物をだえきといっしょに数十回かむとおなかがいっぱいという指令が出される。胃や腸がちょうどいい具合に働くようにする。歯やまわりの骨が強いと歯を食いしばる力が強くなる。よくかんで食べると、心が安定して学習のう力がすごく高まる。

(B児)

・かめばかむほどいいことは、ほかに三つある。まずよくかむと脳から知らせが出され、食べ物の量を調節している。次に、よくかむと歯を食いしばる力も強くなるので体全体の成長にも大切。かむことは脳と結び付いているので脳の働きも活発になる。

(C児)

- ・ 3つを比較することによって、

A児やC児のように数をはっきり書くと分かりやすい。

B児には自分の言葉が入っている(すごく高まる)が、事実と感想は区別した方がよい。

A児のは、一つ目のいいことが分かりにくく、三つ目は朝ごはんのことだけではないのではないか。

C児には、三つ目の接続語がない。

ということに気づくことができた。

この学習は、新聞の記事を書くときに、自分でよいと思う書き方を選び、取り入れることにつながった。

(3) 新聞記事にまとめる

- ・ 授業でまとめた要点をつなぎながら、新聞づくりを行った。

新聞のタイトル 「かみンゲー新聞」「かむ力新聞」「かもうよ！新聞」「カミカミ新聞」
 「かんでハッピー新聞」「かむこと新聞」「かむのはすごい新聞」

段落構成 全員が、初め・中・終わりの3つの構成で書くことができた。

要約文の見出し 「かむことの力」「かんでいいこと」「かむといいこと」

新聞記事の内容

かむといいことが5つ書けている・・・13名

数が入っている・・・・・・・・・・12名

* 81%の児童が「かむ」ことの力の文章から要約をして、新聞にできたといえる。

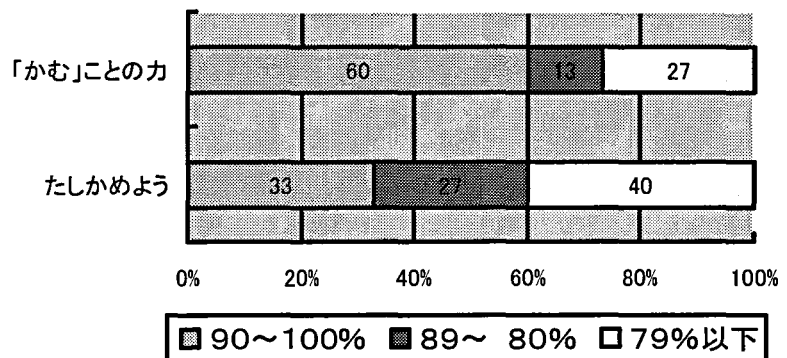
単元テストにおける読む能力

- 読み取りに関する平均正答率

『「かむ」ことの力』・・・・・・・・・・89.2%

「たしかめよう」(1学期まとめのテスト)・・75.2%

- 正答率分布

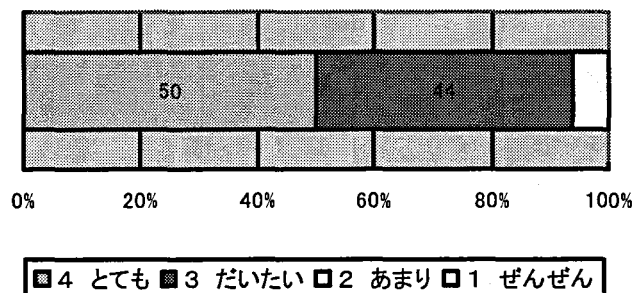


【考察】

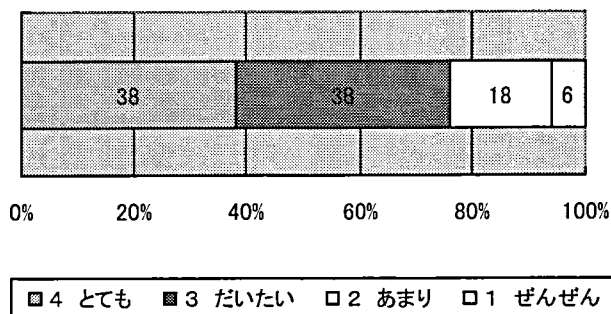
- 『「かむ」ことの力』の単元テストでは、平均正答率が89.2%、正答率80%以上の児童が73%であり、内容を的確に読み取ることができたといえる。
- 「新聞記事にまとめる」という目的に合わせて要約ができたことから、目的をもたせた読みは内容の中心をとらえて的確に読み取ることには有効であるといえる。
- 初めて読む説明文のテストの平均正答率75.2%と比較しても、本単元での学習が的確に読み取ることには有効であったと考えられる。反面、活用できるまでの力にはなっていないことも明らかになった。

新聞作りに関するアンケート

『「かむ」ことの力』で新聞作りをしたのは楽しかったですか。



新聞のときは自分で満足できる
ものでしたか。



【考察】

- アンケート結果から、「新聞作り」には、94%の児童が意欲的に取り組めたといえる。理由を見ても「自分のためになった。」「むずしかったけど自分で考えるのがおもしろかった。」「かむことを調べるのが楽しかった。」「いっぱい知ることができた。」「新聞を読むのが好きだから書きたいと思った。」といった簡単ではないが新聞作りを通して、新しい情報を得たり自分の力になったりしたと感じる児童が多いことが分かった。
- 新聞の出来上がりに関しては、「人にはない記事が書けた。」「だえきをつばに書き換えて工夫した。」という内容面での満足感があると同時に、「絵をもう少し入れた方がよかった。」「字がきたなかった。」「空白があるのでもう少し記事を多くすればよかった。」という書き方の面で満足できない部分とが伺える。ただ、自分でうまくまとめられなかった、できなかったという思いで終わってしまった児童もいるので、具体的な個別の手立てが必要であった。
- 「新聞記事にまとめる」ことを通して、字数制限が大事なポイントとなる。要点をまとめるために必要な言葉を見つけ出す力をつけていく必要がある。

【検証の視点2】

一人読みの場を確保することによって、自分の考えをもち、筋道を立てて考えることができたか。

(1) 一人読みの手引きの活用

学習する段落について、自分でキーワードを見つけたり大事なところに線を引いたりして、根拠となるところをはっきりさせながら要点をまとめるようにした。

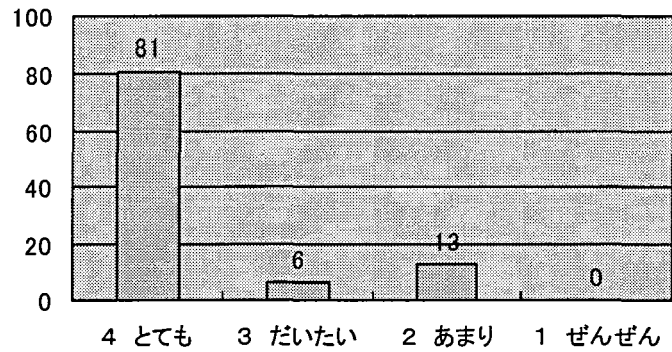
自分ではまとめることがむずかしい児童は、友達の発表を聞いてそれを参考にまとめさせたが、まず自分でやってみたからこそ、どれがいいということやなるほどと分かるのだと考えられる。

〈児童の振り返りより〉

- ・かめばかむほどのところに気を付けてまとめるといいことが分かりました。
- ・くり返しの言葉や接続語を見つけられました。
- ・まとめるのに言葉をさがすのは大変だったけど、がんばりました。
- ・筆者の工夫は自分では見つけられなかったけど、人の発表を聞いて分かりました。

授業後の「一人読みの手引き」に関するアンケート

読むときに一人読みの手引きは役に立ちましたか。



(理由)

役に立つ

- ・ どうやって読めばいいか分かったから。
- ・ 接続語が分からなかったけど、手引きで見つけられたから。
- ・ やることが分かって、読む順番も分かるから。

役に立たない

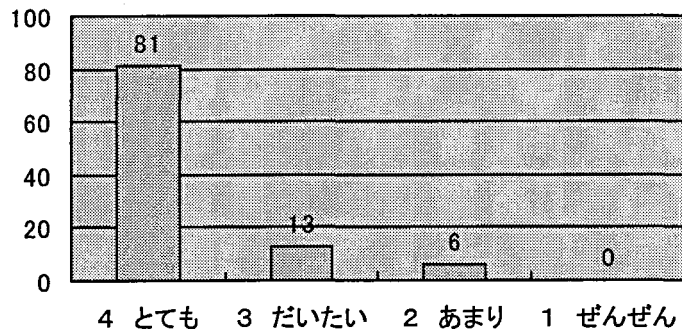
- ・ 手引きがなくても、自分でほとんど書いている。

(2) 書き込み教材文の活用

- ・ 「一人読みの手引き」にしたがって、書き込んだり、友達の考えを聞いて書き加えたりしていく。
- ・ 1枚ということにつながりが視覚的にもとらえやすく、自分の考えをまとめるときにも有効である。

授業後の書き込み教材文に関するアンケート

1まいの教材文は、読むときに役に立ちましたか。



(理由)

役に立つ

- ・ めくらなくてもいい。全体が見られる。
- ・ 全部がつながって読みやすい。
- ・ いくらでも書きこみができる。
- ・ どこに何が書いてあるかが見つけやすい。
- ・ ぱっと読めてどこが大切かが分かりやすい。

役に立たない

- ・ 机から落ちる。

【考察】

- 書き込み教材文は、94%の児童が肯定的評価をしている。自分の考えをどんどん書き込んでいけると、視覚的に全体が見渡せ、ポイントとなる場所を見つけやすいということが大きな利点である。大事なところに印が付いていることで、要点をまとめるときにも生かすことができたといえる。
- 書き込みをする際には、「一人読みの手引き」が活用できた。今回初めて使ってみたが、「読む準備をしよう」までは一人一人が、自分のペースで読み進めることができた。87%の児童が、読む順番やどう読めばいいかが分かったと肯定的評価をしているので、説明的文章においては自分の考えをもたせるために有効であったと考える。
- 「一人読みの手引き」を使うことによって、まず自分の考えをもち、授業で考えを出し合う中で、考えの根拠となる言葉をさがしたり友達を納得させるような説明をしたりすることにつながっていく。「自分では見つけられなかったけど、人の発表を聞いて分かりました。」という感想からも、まず自分で文章を読んでみて考えをもつことが必要であり、その場の確保のために「一人読みの手引き」や「書き込み教材文」を有効に活用できたと考える。

(3) 栄養士に学ぶ

読み取ったことの中から、自分が興味をもった「かむ」ことの力についてさらにくわしく書きたいことを決めて新聞記事にまとめた。その際、給食にある「かみかみ献立」に気づいた児童がいたので、共同調理場の栄養士さんをゲストティーチャーとして迎え、「かむ」ことについての情報を広げる授業を行った。

日時 平成20年7月2日(水) 第5校時

単元名 学級活動 「かみかみ献立のひみつ」

本時のねらい

- ・「かみかみ献立」に興味をもち、かむことのよさを確かめることができる。
- ・自分が興味をもったことを進んで取材し、記事に生かそうとする。

- ・この授業を通して、「かむ」ことの力がさらに実感できたようだった。給食の時には回数を数えながらかむ姿が見られるようになった。
- ・話を聞きながらメモをとることができるようになり、メモを生かして記事を書くことができていた。
- ・新聞記事はこの授業で聞いたことが多くまとめられていた。話の中から自分が書きたいことを取捨選択できる児童も増え、何を書いたらいいかと迷う児童はいなかった。



○ 新聞記事に生かす

この授業で、教えていただいた「かみかみ献立」のことを入れて記事を書いた児童が12名いた。「かみかみ献立に使われる食品」「かみかみ献立の回数」「かみかみ献立の種類」

また、栄養士さんが紹介された資料をすべて書き写し、記事に使った児童もいて、取材力メモの取り方にも向上が見られた。

自分が興味があった情報を選んで記事にするという活動は、読者を意識しながら自分の考えを表現する力につながっていったと考える。

6 成果と課題

- 読み取ったことをいかして新聞にするという目的がはっきりしていたので、単に情報を受け取るのではなく、情報を取捨選択しながら、意欲的に自分の考えをまとめることができた。
- 一人読みの手引きを活用することによって、くり返されている言葉や接続語などに着目し、要点をつかんで的確に読み取る方法を身につけることができた。
- 3年生に新聞を読んでもらうという相手意識があったので、難しい言葉を言い換える等、分かりやすく表現する工夫をしながら筋道を立てて文章を書くことができた。
- 情報の取り出し場面においても、本文に返り根拠を明確にし、さらに内容の吟味につながる発問を工夫していかなければならない。
- 多様な児童実態への対応が必要であり、個々の実態に合わせた具体的な手立てを明確にしていく。

〈参考文献〉

安藤 修平 2007 「読解力再考 すべての子どもに読む喜びを～PISAの前にあること～」
(東洋館出版社)

堀江 祐爾 2007 「国語科授業再生のための5つのポイントーよりよい授業づくりをめざしてー」
(明治図書)